



Title	観光と近代：英国を例にとって
Author(s)	西川, 克之
Relation	北海道大学観光学高等研究センター共同研究会「観光創造研究会」設立準備会, 「観光創造学を考える」研究会録. 2013年11月23日, 24日. 北海道大学遠友学会.
Citation	「観光創造学を考える」研究会録 / 北海道大学観光学高等研究センター共同研究会「観光創造研究会」設立準備会, 94-109
Issue Date	2014-07-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56564
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	conference paper
File Information	08_nishikawa.pdf, 資料



観光と近代—イギリスを例にとって ～disembedding から (re-embedding) へ

2013年11月24日
西川 克之

1

本日の私の論述の前提: 観光 tourism = 近代的事象

～観光者であるということは、「近代的」であるということの決定的な特性のひとつ(アーリ『場所を消費する』)

→ 観光をよすがとして近代とは何かを考える
あるいは
観光の近代性を振り返って観光創造の可能性を探ってみる

○アンソニー・ギデنز 『近代とはいかなる時代か』 (Anthony Giddens, *The Consequences of Modernity*)における議論

・近代の特質としての時間と空間の分離 separation of time and space

近代以前:

大多数の人びとにとって、日々の生活の基盤をなす時間の測定は、つねに時間を場所に結びつけるかたちでおこなわれていた・・・他の社会空間的標識にまったく言及せずに、誰も一日の時間の経過を口にすることはできなかった

2

From Michael R. Marrus, *The Emergence of Leisure*

聖月曜日(労働者の中には週の初めを勝手に休日と決めて飲んで過ごすものもいた)に加えて、さまざまな非労働的活動—歌ったり、飲んだり、踊ったり、うわさ話したり—が一日の労働に当たり前のように入っていた…こうした活動は伝統的な共同社会の生活の一部であり、それ以外では意味をなさなかった…伝統的な社会はキリスト教的であり、田舎風であり、ヒエラルキー的であり、慣習によって支配されていた

From Sebastian de Grazia, *Of Time, Work, and Leisure*

彼らが知っていた生活は時間にうるさくなく、無駄話が多いものだった。靴屋は好きな時に起きて好きな時に働き始めた。何か面白そうなことが起これば、作業の手を休めて見に出かけた。飲み屋でうわさ話に花を咲かせるのに時間を費やし過ぎた日があれば、翌日は夜中まで頑張っ
て遅れを取り戻した…靴屋には作ったり修理したりすべき靴があった。飲み屋でカードをしているときは靴を作っていなかったが、いずれにせよ彼は「自由な時間」を過ごしてはいなかった。近代的な意味での時間に従って生きてはいなかった。彼には作るべき靴があり、飲むべきビールがあり、遊ぶべきカードがあったが、そのどれをも彼は「労働と余暇」という言葉を必要とせず行っていた。

3

それに対して、[工場で]10時間労働に従事する労働者が手にしたのが「自由時間」、すなわち、以前は手にしたことがなかった「無為の集中」であった。労働時間と自由時間はこうして分けられ、それが現代まで続くことになった。

From *The Consequences of Modernity*

機械で動く時計の発明と、事実上すべての人びとへの機械時計の普及は、時間の空間からの分離にとって重要な意味をもつ出来事であった。時計は、「空白な」時間という均一の次元を表示し、その結果…時間を定量化していった。

・空白な空間empty spaceの成立

～ 場所placeから空間spaceが遊離する

近代以前:

場所と空間は一致していた 具体的な社会的活動が生起する場所と理念的なイメージとしての空間はほぼ同義であった

4

近代化のはじまり:

不在の他者 absent others—対面的相互関係の環境から位置的に遠いところにある他者—との関係の促進によって、空間が場所から切り裂かれる

→ 地域的な場所 locale に、遠く離れたところでの諸関係が影響を与え始める

遠く離れた地域の発見による地域的場所の相対化と、空間的単位の置換可能性

探検家・冒険家の情報をもとに、平板化・抽象化された世界地図が作成される

→ 特定の場所や地域の社会関係や物語りを脱色した空間の確立

5

脱埋め込み disembedding:

社会関係が、場所性を有した相互関係のコンテキストから引き離され、時空間の非定型的な広がりを通して再構造化されること

By disembedding I mean the "lifting out" of social relations from local contexts of interaction and their restructuring across indefinite spans of time-space.

遠く離れた地域の発見による地域的場所の相対化と、空間的単位の置換可能性

探検家・冒険家の情報をもとに、平板化・抽象化された世界地図が作成される

→ 特定の場所や地域の社会関係や物語りを脱色した空間の確立

6

○商品化した文化の流通と趣味や価値判断の社会的共有

18世紀以降の近代化した市民社会

＝場所の束縛から解放され、平準化された時間の尺度が援用された
無限定に拡大する空間において展開する市場を舞台とした、自由で平等な立場での交換によって資本を蓄積していく市民が主役

彼らはやがて公共的な言論空間(市民的公共圏 bourgeois public sphere)を形成していく

その舞台:

コーヒーハウス / *Spectator* のような定期刊行物

Spectator: リチャード・スティール (1672-1729) とジョゼフ・アディソン(1672-1719)によって1711年3月 から1712年12月まで発行された雑誌。1714年アディソンにより復刊

Spectator (=観察者)という著者が、がロンドンの文化や流行・風俗を観察して、礼儀作法、道徳、文学などに関わるエッセイを発表する。

芸術や文化あるいは道徳に関する公衆の議論を通して、「普遍的」な判断基準や価値基準が形成されるようになる

7

'Of the Manners of the Age, as Refined by Luxury' (1711)

・・・豊かさ(riches)が作法(manners)に与える影響以上に普遍的なものがあるだろうか?・・・あらゆる階層の人びとが支出を増加させ、その度合いにおいて上流の人びとと競い合うまでになっている。・・・そうした人びとは、服装、調度品、家、家具、娯楽などにおいて特徴を打ち出したいと強く願っている。・・・[こうしたことは]・・・豊かさの一般的な影響・・・[によって]・・・洗練された作法が伝わる。・・・[中流層の家庭では]その食卓は、100年前の大貿易商のそれと同じような食事が並び、住居も立派で装飾がほどこされ、家具は前の時代から見違えるほど改善した。服装の点では、飾り小物でめかし込んだ若い男女を見ればよい。・・・こうした人の娯楽について見てみれば、芝居を見に行ったり、知り合いを訪ねてはお茶を飲んだりカードに興じたりしている。

社会的に共有された趣味の具体例:ピクチャレスク・ツアー

William Gilpin (1724-1804) が1782年に『ワイ川および南ウェールズの地域に関する観察:主にピクチャレスク的美との関連から』を出版したことが契機

～18世紀の終わりには、5版を重ねるほどに広く読まれ、英国におけるピクチャレスク・ツアー流行に火をつける

8

From Ann Bermingham, "The Picturesque and Ready-to-Wear Femininity" in *The Politics of the Picturesque* (1994)

イギリスのありきたりな自然風景に美を与えることによって、ピクチャレスクの理念は多数の国民に美的判断というものは特権的な少数の才能なのではなく、誰にでも身につけることができ、ほとんど何にでも適用できるのだという認識を与えたのだった。ピクチャレスク理念の最も重要で確固たる影響は、中流の人びとに生活を美的に見る態度を促したことだ。というのも、ピクチャレスク理念は、人びとに自然を一枚の絵画であるかのように見ることを教えて、特別な景観や絵画に対してだけでなく、慣れ親しんだ場面や物—都市景観、建築物、庭園、動物、家具、陶器、織物、ドレス—に対しても向けるよう訓練された目利きの視線を習慣づけたのだから。

○脱埋め込みと価値の社会的共有がもたらすもの

伝統的な共同体の束縛からの解放

効率的な生産や迅速な情報とモノの流通を可能とするように時間と空間を再構成restructureし、あるいは人を再配置relocateする

一方でまた、具体的な土地や場所に根差した安定した社会関係から切り離され、たえず再構成され続けなければならない流動化した時空間に身を置くこと

9

○観光創造の可能性(のひとつ)?

観光を契機として・・・

土地や場所と実体的にかかわり、それに根差して生きられた社会関係を経験

計測化され計量化されるのではない、途切れなく継続していく時間に身を置く

そのような経験や時間を通して、authentic = (re-embedded) な記憶や物語りを刻む ～ 他者との関係や場所にハグされた感覚を残して

グローバル化した社会において透徹していく近代性を揺るがすようなノイズとして